

日本聖公会 ウィリアムス 神学館ニュース

2023年
第 115 号

The Bishop Williams
Theological Seminary NEWS

日本聖公会京都教区
発行・編集人：黒田 裕
〒602-8011
京都市上京区桜鶴門町380
TEL：075-431-5406
FAX：075-431-5445
williams@muc.biglobe.ne.jp



ご挨拶

日基教団西陣教会 津田 華枝

今年度より、代講の形で教理学特講を担当させて頂いております。ウィリアムス神学館では、昨年9月より主事補(今年度4月より主事)として主に教務関係の事務に携わっており、黒田館長、前田主事室長に御指導頂きながら、業務の概要を把握すべく、山田主事と共に努めております。

担当させて頂いている科目では、古代の神学的議論を追いつながら、キリスト教における中心的な幾つかの教えを学んでいます。実は、私自身の関心も、この20年程変わらず、やはり古代の、ある思想家を中心に回っています。アレクサンドリアのフィロンというユダヤ人聖書解釈者がその人で、ギリシアの諸哲学を援用した聖書解釈、とりわけ寓意的解釈によって、その名を知られています。現在でも、

フィロン研究は毎年年報が発行される程に盛んです。しかし、日本においては、彼個人に特化した研究は、それ程多くありません。何故、そのような状態に置かれているのか。そこには理由があると見るべきだったのですが、深く考えることなく一步を踏み出してしまったがために、戻ることの出来ないまま(ライフステージの変化により7年程ブランクはありますが)今でも心がそこに留まっています。現在の私は、そのような状況です。そもそも、フィロンやヘレニズム的ユダヤ教に関心が向かう最初のきっかけは、大学、学部時代に受講した、飯謙先生(神戸女学院院長)の「聖書学」、及びゼミでの学びの内にあったように思います。前者は先生の御専門である詩篇に関する講義でしたが、修辞技法的考察、原文に即した語の解説、想定される担い手について等、わくわくしながら聴いたことを鮮明に覚えています。また、ゼミでの学び

においては、知恵文学を取りあげられる機会があったように記憶しています。その知恵文学の一つ、コヘレト書を、無謀にも卒業論文で扱ったのですが、この書の中にヘレニズム期の特徴が認められるという解説に惹かれ、所謂ヘレニズムとヘブライズムの接点へと関心が向かい、そこから、フィロンへと至った次第です。

道を伝えて

かつて路上観察なるものが話題になったが、私の場合、石造りの道標に目がいく。拓本をとっていたことがあるからだ。拓本とは、石に刻まれた碑文や紋を、墨で半紙に写し取ったもののことだ。学生のころ、もっぱら道標を相手に数年拓本をとっていたのである。

京都の町中には今もあちこちに道標が残っている。たいていは三叉路や橋のたもとなどの分岐点に打たれていて、次の地点への方向や距離、現在地点が刻み込まれている。思いがけないところで出くわすと、意外な方向を示していて、別の道につながるということが知れる。まるで交わる道と道の結び目の

これまで、飯先生はじめ、様々な先生方に導いて頂き、多くのことを教えて頂きました。ウィリアムス神学館の神学生の皆様とそれらを共有することにより、私自身、再び学ばせて頂ければと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(つだはなえ本館主事、教授教理学)

ようではないか。

交わるどの道もきつと多くの人がたどったことだろう。岐路に至った迷いも決意もこれまでどれほど受け止めてきたのか。時を経た道標には包み込むような風格がある。碑のひんやりとした質感も、厳(いか)めしいようでいて、どこか淡くやわらかい。

道を歩いていて、何かに呼ばれた気がして、ふと足を止める。見ればアスファルトの路傍に道標が立っている。いつからあるのかというこちらの思いはよそに、ただ道が通じていることを示して淡々とそこにある。道行く人にかすかにずっと呼びかけているのだろうか。

(宮田 玲みやたあきら)

本館図書館司書、教授(ヘブライ語)

同窓会通信

他教派の牧師をしていたためか、

礼拝学や聖公会論を中心に1年間学んで来るようにとのことで、受講科目は特殊な組み合わせで、2年生とも3年生とも一緒に学ぶ機会がありました。1999年4月の入学で、24年も前になります。勉強は苦手で成績は良くなり、

いつもレポートに追われていました。毎日の礼拝は貴重な経験で先輩方のなさり方を良く見て、いろいろ教えていただきました。

木村夕子司祭、松井新世司祭が当時先輩におられましたので、学びでも礼拝でも生活でも、大変お世話になりました。

土日の実習は京都聖マリア教会で浦地司祭が忍耐強くご指導くださいました。京都聖アグネス

教会では、初めてのことが多かったせいか緊張して、サーバーでもないのに大声で聖歌番号をアナウンスしてしまい、皆様を驚かせてしまったこともありました。御所で職質を受けたことは懐かしい思い出です。冬休みは帰道せず、大阪教区の川口基督教会でご指導をいただきました。

北海道教区での「支える会」の故に北海道の家族の生活も支え

られたことを感謝しております。妻がアキレス腱を切り、娘たちが知人宅のお世話になった時、神学生の仲間たちがカンパをしてくださり、2、3日帰道出来たことも心より感謝しております。神学館はこの私にとって、神学と礼拝と共同生活と泣きたくなるほどの愛を教えてくれた場所です。主に感謝。

(北海道教区 司祭 飯野正行)

東北教区主教按手式

本館卒業生初の
主教の誕生です



リストを宣べ伝えていきます。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに伝える僕なのです。」(聖書協会共同訳Ⅱコリント4:5)

ウイリアムス主教の魂である「道を伝えて己を伝えず」、ウイリアムス神学館の神学生たちはこの言葉を頭と心に刻みます。

「私たちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるイエス・キ

2023年4月22日(土)東北教区主教座聖堂・仙台基督教会においてフランシス長谷川清純司祭が公会の主教職に按手され、東北教区第9代教区主教に就任されました。冒頭の言葉は、按手式での長谷川主教の挨拶の一部です。ウイリアムス神学館の卒業生としてご自身の主教としての歩みの決意表明

の源として語られました。ウイリアムス神学館卒業生として最初の主教が誕生したことを私も同窓生としてとても嬉しくまた喜びに満たされております。長谷川主教とはこれまで東北教区の同労の先輩として一緒に働かせて頂きました。思い出は数限りなくあるのですが、私がまだ20代で神学校に入学する前に教区の青年活動を始めたいと相談したところ「すぐにやろう!」と力強



く背中を押して応援してくれたことは今でも覚えています。気さくで話しやすく、しかしこうと決めたら信念をもって歩まれる長谷川主教と共に歩んでいきたいと思えます。(東北教区 司祭 越山哲也)



アメリカ聖公会ブルース・ウッドコック司祭が来訪されました

4月27日(木)、アメリカ聖公会アジア・太平洋パートナーシップ担当者のブルース・ウッドコック司祭が京都に来られました。地域の神学校間のネットワーク作りのために奉仕されています。まずは主教室を訪問し高地主教と共にしばし懇談の時間を持ちました。



ブルース司祭は今年に入ってから東京、香港、フィリピン等を精力的に回っておられますが、まだ任命されたばかりで暗中模索といった状態とのこと。今秋には箱根で同地域の校長会議を行なう予定でありその準備を進めているということでした。その後は主教座聖堂と本館の授業を見学された後、昼の祈りに参加(写真右下)、食堂で昼食をとりながら神学生たちとも



交流の時間をもちました。食後は館長室でお茶を頂きながら(写真左)本館の概要を伝える資料をもとに数名の先生方も加わりしばし懇談しました。この繋がりが今後どう成長していくか楽しみです。



マイケル・D・モイヤー司祭が来館されました

5月16日(火)、東京教区・聖オバルン教会のマイケル・D・モイヤー司祭が来館されました。本館で月一回行われている「教会刺繍の会」のメンバーである松田清江さん(京都聖マリア教会)のご紹介です。前日には松田さんのアテンドで奈良基督教会、京都聖マリア教会を訪問され、そこでは「神の小羊」をモチーフにした刺繍を指す様子をご覧になられたとのことでした。当日は主教座聖堂を見学した後、御所を散策、葵祭りの行列を観覧され、再びニコルス館の昼の祈りにて合流。さらに食堂にて神学生たちと交流の時間を持



ち、食後は館長室に移動し、しばし歓談の時となりました。モイヤー司祭はアメリカの伝統的神学校の一つ、ナシヨタ・ハウスを卒業されたそうです。かねてより聖オバルン教会は本館をおぼえご加禱・ご支援くださっているため、今回対面でその謝意をお伝えできたことはよかったです。またのお越しをお待ちしております！

新たな主事が 誕生しました

残念ながら今年度は本科への入学者はありませんでしたが、これまででも聴講されていた大倉有紀・大阪教区聖職候補生が今年度より教区派遣科目聴講生として科目履修をされています。入学礼拝はありませんでしたが、始業礼拝をもって今年度がスタートしました。その礼拝の折、昨秋から主事補としてすでにご奉仕いただいていた津田華枝さん(日本基督教団西陣教会)と山田敦子さん(京都聖ヨハネ教会)の主事任命式が高地敬主教・理事長の司式により執り行なわれました。礼拝に引き続き任命のしるしとしてお二人に黒田館長より名刺が渡されました。

今年度はかねてよりご奉仕くださっている前田伸子主事(大津聖マリア教会)を「主事室長」とし、三名の主事体制となります。それぞれ週一回から二回ご奉仕くださいます。専任もしくは専任に近い主事と非常勤の主事補がいる、という体制がとれなくなっ

ようこそ神学館へ 同志社大「三輪ゼミ」のご訪問

5月26日(金)、同志社大助教で本館教授、三輪地塩先生の授業の一環でゼミ生の皆さんが本館を訪問されました。主教座聖堂とニコルス館の見学はじめ館長室での神学館の教育課程についての説明に興味深く耳を傾けておられました。下の写

真は「放出図書」の部屋での一場面。みなさん目を輝かせて「お宝」を手につけて持ち帰られました。活字離れが進んでいると言われる昨今、久しぶりの素敵な光景に温かい気持ちになりました。どうぞまた来てくだされね。



て久しい神学館の試行錯誤の一端ですが、今後も現場の運営体制についての模索や工夫は続いていくことでしょう。どうぞそのこともおぼえご加柄ください。



出版物のご案内

本館教授・前川裕先生の手になるウイリアムス神学館叢書第Ⅵ巻『今さら聞けない!? キリスト教—古典としての新約聖書編』の出版が現在鋭意進行中です。本紙今号がみなさまの手に届く頃には刊行されていることでしょう。どうぞ手にお取り下さい。現在神学館では受注・発送の体制がとれませんのでお近くのキリスト教書店にご用命を。直接本館に取りに来られる方はその限りではありません。

神学館の1学期

4月

5日 始業礼拝・主事任命式
11日 1学期授業開始

6月

18日〜7月9日 黒田館長渡米
24日 1学期授業終了

7月

4日 試験週
9日 1学期教会実習終了
13日 終業日

【今後の予定】

8月

29日〜9月1日 夏期実習(東九条)

9月

6日 2学期授業開始